

## 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

鹿児島市立広木小学校 教諭 横山 邦昭

### 1 単元名 「地域の人たちとのつながりを深めよう」

### 2 単元の目標

- ・パラスポーツを調べることにより、誰もが楽しめるスポーツについて知ることができる。(知識及び技能)
- ・地域の人たちとのスポーツ大会を行う上で、必要な準備について考えるたり、今後の関わり方について考えたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・地域の人たちとのスポーツ大会を行う上で、事前の準備、当日の運営を進めたり、スポーツでの交流を楽しんだりすることができる。(主体的に学習に取り組む姿勢)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

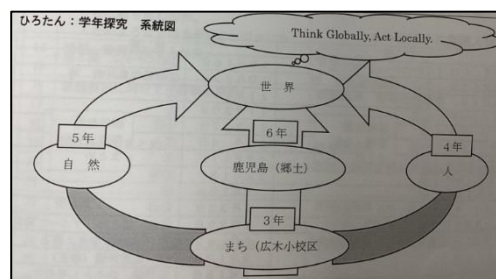
近年、町内会の加入率の低下、地域行事の参加率低下等で、地域の方々は、元気な子供たちとの交流を望んでいるが、つながりは希薄となっている。そこで本単元では、地域の人たちとスポーツ大会を行うことにより、より地域の人たちとのつながりを深めることをねらいとする。

まず、「ボッチャ体験」を行うことにより、簡単で、誰もが楽しめるスポーツがあることに気付かせる。パラ種目を調べたり、ニュースポーツ等を調べたりさせることにより、自分が知らないスポーツが多くあることに気付かせ、多くのスポーツに興味を持たせる。次に、【地域の人たちとのスポーツ大会を行おう】という単元の最終ゴールを知らせ、ルールが簡単で、老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツについて考えさせることができる。

誰もが楽しめるスポーツを通して、地域の人とふれあうことができ、地域の人たちとの交流、深まりを図ることができ、今後の地域活動の活性化につなげることを期待できる。

#### (2) 児童観

本校での総合的な学習の時間では、令和6年度より右の図のように、『Think Globally, Act Locally』の考えのもと、第3学年で広木校区の発展（昔と今、そして未来）について、第4年生では地域の「人」、第5年生では地域の「自然」、第6年生では鹿児島という「郷土」について学習を進め、最後は世界につながる活動に取り組んでいる。



第4学年となると、運動における技能において差が生まれ始める。できる人に偏らない進め方について考えることにより、みんなが楽しく参加できる内容について進めることができるとともに、今後の活動において基本的な考えを持たせることができる。また、道具の準備、招待状やお礼の手紙、大会当日の企画運営など、次年度から高学年となる4年生にとって、大切な素地の芽生えを図ることができる。

### (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず『障がい者との交流「ボッチャ体験」』を行い、誰もが楽しめるスポーツについて知らせたり、考えさせたりする。次に他にも誰もが楽しめるスポーツはないか調べ活動を行い、多くのスポーツがあることを理解させることができる。どのスポーツが老若男女で楽しめるのか検討し、スポーツ大会に向けて準備を進める。

道具においては既製品を購入するのではなく、自分たちでどのようにして作り出せるか検討したり、招待状やお礼の手紙など文章の書き方を考えたり、大会当日の進め方をどのようすればよいか考え実行していくなど、企画・運営について触れさせる。これらの活動は、高学年に向けての良き準備という機会となる。また、小学校高学年や中学校、高等学校ではクラスマッチという機会もある。これまではサッカーやバレーボールなど経験者が優位となるスポーツが企画されていたが、誰もが楽しめるスポーツという観点で進められる能力を作り出したい。

最後にスポーツの交流を通して、今後の地域活動について興味を持たせたり、関わりを大切にすることを考えさせたりし、地域行事の活性化につなげたい。

### (4) ESD との関連

#### ○本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

**多様性**…誰もが楽しめるスポーツは知らないだけで、多くのスポーツがあること。

**相互性**…スポーツを通して、互いに楽しむことができること。

**有限性**…既製品を購入するのではなく、自分たちで道具を作り出すこと。

**公平性**…能力に関係なく、誰もが楽しめるスポーツがあること。

**連携性**…招待状やお礼の手紙を作成、スポーツでの交流で、多くの地域の方と関わりを持つこと。

**責任性**…大会の進め方などを検討し、スムーズに進めることができるようにすること。

#### ○本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

##### クリティカル・シンキング

- ・楽しめるスポーツとは、知っているスポーツで検討するのではなく、パラスポーツ等に注目するなど、多くのスポーツがあることを知る。

##### コミュニケーションを行う力

- ・招待状やお礼の手紙を作成することにより、相手に失礼のない言葉を選んだり、文章の構成を考えたりする。
- ・お互いのプレーを賞賛することにより、関わり合いを高める。

##### 協働的問題解決力

- ・大会を実施するにあたり、どのような準備が必要なのか検討したり、各係で連携を図ったりして、何を、いつまでになど具体的なスケジュールをもとにして進めていく。

##### 進んで参加する態度

- ・準備や係を分担し、全員が大会の成功を願って活動に取り組む。

## ○本学習で変容を促す ESD の価値観

「世代間の公正」を重要視できる

- ・誰もが楽しめるスポーツを考えたり、ルールを簡易的なものに変えたりして企画することにより、世代によって生まれる能力差(身長や筋力等)に関係なく、1人1人がスポーツに楽しむことができる。

## ○達成が期待される SDGs

- 3 すべての人に健康と福祉を      5 ジェンダー平等を実現しよう  
 10 人や国の不平等をなくそう    11 住み続けられるまちづくりを  
 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

## 4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①誰もが楽しめるスポーツを知っている。	①スポーツの特性について考えている。 ②大会を進めるための準備について考えている。 ③これからの関わりについて考えている。	①意欲的にスポーツを取り組み、楽しんでいる。 ②大会に向けて準備を進めている。

## 5 単元の指導計画 (全20時間)

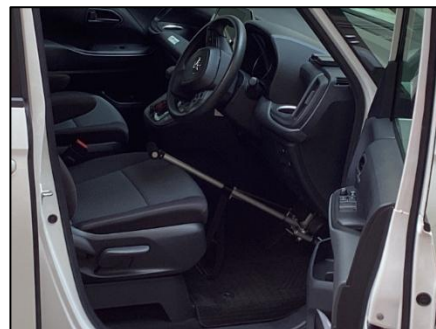
学習活動	学習への支援 「(教師の発問)」	評価・備考
1 「ボッチャ」を体験しよう。	○車椅子の方、ボッチャ協会の方を招き、一緒にボッチャを体験する。 「ボッチャを体験して感じたことはありませんか。」体験の感想を持たせる。	ア① (知・技) ウ① (主体的)
2 パラバドミントンを体験しよう。	○パラバドミントン選手を招き、車椅子バドミントンを体験する。 「ボッチャとパラバドミントンでは、どのような違いがありましたか」運動の特性の違いについて考えさせる。	イ① (思判表) ウ① (主体的)
3 単元全体のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     地域の人たちとスポーツ大会をしよう                 </div> パラスポーツ、バリアフリースポーツ、ユニバーサルスポーツについて調べ、調べたことを共有する。	○「ボッチャ以外に誰もが楽しめるスポーツは他にないだろうか」より、他にもないのか、興味・関心を高める。 ○パラスポーツ、バリアフリースポーツ、ユニバーサルスポーツというキーワードを紹介し、その競技のルールや楽しさについて調べさせ、調べたことを共有させる。	ア① (知・技)

4 種目を決定する。	○「地域の人と楽しむためのスポーツは何にすればよいだろうか」スポーツ、運動の特性等について考えさせ、種目を決定させる。	イ① (思判表)
5 必要な準備等について考え、役割分担をする。	○「大会をするためには、どのような準備を進めなければならないだろうか」	イ② (思判表)
6 それぞれの係で準備を進める。 ○日時の設定、ルールの確認  ○招待状の作成  ○道具の作成  ○チームの割り振り	○正規のルールにとらわれず、簡単なルールで行えるようにする。 ○もらってうれしい招待状の作成、文章の書き方について考えさせる。 ○既製品を購入するのではなく、自分たちで作る計画を立てさせ、制作させる。 ○それぞれの地域ごとに編成を考えさせ、同じ地域の方と交流できるようにさせる。	ウ② (主体的)
7 地域の方とスポーツ大会を行う。	○実行委員を中心に、地域の方とのスポーツを楽しませる。	ウ① (主体的)
8 お礼の手紙を作成する。	○楽しく過ごせたことやこれからの関わりについて考えさせ、手紙の文章で表現させる。	イ③ (主体的)

## 6 成果と課題

### 【成果】

- ボッチャ体験をすることで、能力に関係なく、誰でも楽しめるスポーツに子供たち自身が気付くことができた。
- パラバドミントンの選手との交流で、車椅子操作の難しさ+バドミントン：競技の難しさを体験し、車椅子の方でもがんばって努力している人との出会いで、子供たちの考え方、生き方等、刺激になったようだ。
- 車椅子の方も車を運転することができる、自動車設計の工夫についても知ることができ、知らない世界を知ることができた。



- 地域の方と楽しもうと企画する楽しさを味わうことができたとともに、企画するための手順について学ぶことができた。
- 総合的な学習の時間での交流はまだ行っていないが、企画を検討するなどの活動を行うことで、今年度の校区運動会には多くの子供（4年生）が参加していた。地域の方と多くの交流ができていた。
- 地域の方との交流種目が「風船バレー」「ペットボトルボウリング」となった学級もあった。誰とでも、簡単に取り組めるスポーツについて考えることができた。

### 【課題】

- 学校職員と地域の方とのつながり弱く、地域の方と連絡を取れる職員が少ないため、連絡調整が難しい。



今年度が初めての企画となるため、スタートさせることで、今後の学校と地域、職員と地域の活性化につなげていきたい。

- 4年生という学年で、活動の企画等は初めてだったため、見通しがもてない子供もいた。



「できないからやらない」ではなく、教師側からのサポートを入れながら子供たちが企画することで、高学年を迎える準備につながると考える。【課題】より【成果】として考えても良いかもしれない。

**現在の学年終了時に目指す姿** ※広木小ではキャッチフレーズとして  
 一人はみんなのために、みんなは一人のために 活動する子供  
 One for all for one.



**総合的な学習の時間**

**「地域の人たちとのつながりを深めよう」**

○主に養いたい ESD の資質・能力

クリティカル・シンキング

楽しめるスポーツとは、知っているスポーツで検討するのではなく、パラスポーツ等に注目するなど、多くのスポーツがあることを知る。

コミュニケーションを行う力

招待状やお礼の手紙を作成することにより、相手に失礼のない言葉を選んだり、文章の構成を考えたりする。

お互いのプレーを賞賛することにより、関わり合いを高める。

協働的問題解決力

大会を実施するにあたり、どのような準備が必要なのか検討したり、各係で連携を図ったりして、何を、いつまでになど具体的なスケジュールをもとにして進めていく。

進んで参加する態度

準備や係を分担し、全員が大会の成功を願って活動に取り組む。

○主に育てたい ESD の価値観

世代間の公正

誰もが楽しめるスポーツを考えたり、ルールを簡易的なものに変えたりして企画することにより、世代によって生まれる能力差（身長や筋力等）に関係なく、1人1人がスポーツに楽しむことができる。

住みよい街（広木）であり続けるためには、子供、大人に関係なく、意見を出し合えることが大切である。

上手な人だけがするのではなく、みんなが関わるためには、どのようにすればいいのかな？

**体育科「ネット型ゲーム（パスパスバレーボール）」  
 「ゴール型ゲーム（ポートボール）（ラインサッカー）」**

自分たちが楽しく運動できるためのゲームのルールを考え、チームで作戦を立てて戦術練習をしたり、スキルアップ練習をしたりして、友達と協力して楽しく運動に取り組むことができる。

**学級活動：話し合い活動  
 「お楽しみ会をしよう」**  
 お互いの考えを共有させ、みんなが楽しめる会の企画を行う。

**昼休み：あおぞらタイム  
 「みんなで遊ぶ日」**  
 係を中心に、みんなが楽しめるレクリエーションを行う。

みんなで楽しく過ごしたい。

**地域行事「球技（ポッチャ）大会」「校区運動会」**

地域の声：多くの子供たちに参加してもらい  
 活気あるまちにしたい。